

黒田官兵衛ゆかりの地めぐり・広峰

60分



黒田家飛躍の地となった廣峯神社。広峰の御師たちは官兵衛の祖父・重隆の作った目薬を御神符に添えて売り、黒田家の富たずでなく、土木の技術や各地の情報を伝えました。



2 宝篋印塔



3 廣峯神社拝殿



3 廣峯神社本殿



4 休憩展望台からの景色



5 地養社



7 御師屋敷 (魚住家)



6 薬師堂



9 吉備社



御師屋敷 (肥塚家) から白幣山へ



神秘なる九つの穴 10



黒田官兵衛ゆかりの地めぐり・広峰

黒田家飛躍の地となった廣峯神社。広峰の御師たちは官兵衛の祖父・重隆の作った目薬を御神符に添えて売り、黒田家の富はけでなく、土木の技術や各地の情報を伝えました。

所要時間

60分



広峰へのアクセス

姫路駅北口から神姫バス「医療センター・競馬場前」方面で「白国南口」下車。所要時間14分200円。そこから歩くと30分以上の山登りなので本殿付近までタクシーがおすすめ。

三和タクシー	0120-841-930
増位タクシー	079-223-8451
水上タクシー	0120-231-565
神姫バス(案内)	079-289-1189

1 憩いの広場

御師屋敷跡(谷口家)につくられた公園には黒田家が目薬の材料としたといわれる目薬の木が植えられています。

2 宝篋印塔

随神門下にある宝篋印塔は南北朝時代のもので国の重要文化財です。

3 廣峯神社 本殿・拝殿

現在の本殿は室町、拝殿は桃山時代に建てられたもの。ともに国の重要文化財に指定されていて、どちらも日本屈指の大きさを誇ります。

4 休憩展望台

姫路城や姫路平野、瀬戸内海が一望できる展望台兼休憩所。官兵衛も天下を夢見てこの山上から瀬戸内の海を眺めていたのかもしれない。

5 地養社

牛頭天王をもてなしたという蘇民将来をお祀りするお社。備後風土記によると、牛頭天王が疫病を流行らせて巨旦将来の国を滅ぼしたとき、よくしてくれた蘇民将来に「蘇民将来の子孫なり」との護符をつけた茅の輪を腰につければ厄災から逃れることができるといわれ、全国で行われている「茅輪ぐり」の由来がここにあります。



7 御師屋敷(魚住家)

廣峯神社には社家や下級神官で組織された御師制度があり、東は若狭から西は安芸までお札を配って廻ったと言われています。御師たちは各地にいる檀家が参詣した時には宿として山上にある屋敷を提供しました。官兵衛の時代は50家以上もあった御師屋敷、現在わずかに残る2家(魚住家・肥塚家)も残念ながら内部非公開。あとは廃墟となっています。

8 黒田家屋敷跡

廣峯神社の御師の中に黒田という家があり、家紋は官兵衛と同じ藤巴でした。官兵衛の一族では?ともいわれています。現在黒田家の屋敷は廃墟となり、わずかに石垣が残るのみです。

9 吉備社

吉備真備が最初に社殿を建てた白帯山の頂。陰陽道を極めた真備ですが他に兵学を含めた十二道を修め、藤原仲麻呂の乱では孝謙天皇の軍師を務め、日本初の軍師といわれます。平安時代に社殿が現在地に移転したときに、真備を祀る吉備社が建てられました。真備は唐から針を持ち帰ったことから裁縫の神さまともされています。

10 神秘的な九つの穴

本殿の裏には9つの小穴があり、この小穴の中には古いよく使われる九星の守護神が鎮まっています。願い札と費銭を投げ入れて、この穴に向かって小声で願い事をする、必ず成就するといわれています。

ほかのよってくだんコースへ

コースNo. 19 御着
ごちゃく タクシーで 約10.5 km
(料金目安 3,500円)
みどころ/黒田家廟所、御着城址

コースNo. 14 野里
のごと タクシーで 約5 km
(料金目安 1,800円)
みどころ/古い町並みの残る商店街

ちょっとお勉強。

廣峯神社の由縁

廣峯神社は2千年以上前に素戔嗚尊(すさのおのみこと)が鎮座され、奈良時代にこの山を訪れた吉備真備が御神託を受けて社殿を建立したと伝わっています。唐で陰陽道を極めた真備がこの学問を日本に広めたいと考え、素戔嗚尊を「星の運行を司る神」で「祇園精舎の守り神である牛頭(ごず)天王の化身」であるとして日本の暦を司る神としました。

牛頭天王は疫病の神として崇められ、平安時代に都で疫病が流行った時、清和天皇の夢枕にお告げがあり、廣峯の御分霊を京都にお迎えたところ疫病が収まり、それを祝ってはじめられたのが祇園祭で、その後建立されたのが八坂神社です。鎌倉時代より廣峯神社は祇園本社として崇敬を集め、室町時代には熊野にも劣らぬほどの参詣者が山を訪れたと記されています。

黒田官兵衛と廣峯神社

江戸時代の「夢幻物語」によれば、官兵衛の祖父重隆は廣峯神社に参詣。御師・井口大夫から黒田秘伝の目薬を依頼され、ほどなく艶福長者となったと記されています。当時の廣峯神社の大別当は官兵衛の主君・小寺政職の弟であり、廣峯神社の御師の中に官兵衛と同じ家紋を持つ黒田姓の家があることから、黒田家と廣峯神社の深い関係がうかがえます。廣峯神社は農耕の神として崇められ、農業指導なども行っていました。備中高松城の水攻めや普請など土木工事に長けていたのは、御師達が農地改革など土木工事の知識を持っていたからでしょう。